

モンテッソーリ Luce だより

2019年9月

モンテッソーリ Luce タイム担当：中田 秀美



10月から感覚教育の教具を取り入れます。モンテッソーリの感覚教育の教具はある1つの概念を感覚的に教える為にできています。大きさ、長さ、太さ、色、音などそれぞれ1つの教具につき1つの感覚に対応しています。これから感覚のお仕事も紹介していくので繰り返し教具に触って感覚を洗練させていってください。

ところで敏感期という言葉をご存知ですか？敏感期とは、子どもが成長する過程である一定の時期に持つ特殊な感受性のことです。この敏感期をモンテッソーリ教育では大切にしています。敏感期に子どもはある特定の活動に対して意欲的になったり、活動をしたいと強く思います。スポンジしぼりなど活動の中でも繰り返し好んで行う姿が見られていましたね。

敏感期の子どもはその敏感性と合うお仕事や活動に出会うと大人も驚くような自発的な集中力を見せるといわれています。そのため、モンテッソーリ教育では集団で1つの活動を行うのではなく、個別にその子が選んだお仕事をすることで1人1人の敏感期を大切にしています。敏感期には様々なものがあります。例えば秩序の敏感期にある子どもは、秩序だった環境を求めため、常に同じ物を同じ場所に置いておかないと気が済まなかったり、物を同じ種類で分ける事を好んだり、活動にも秩序性を好みます。いつもと違う事があると泣いて訴えたりすることもあります。大人からみると駄々をこねているだけに見えても、いつもと違うことに気付き機嫌が悪いということもあるのです。生活の中でも食卓でいつも同じ場所に座りたいと言ったり、いつも父が座っている所に母が座ると「そこはお父さんの席だよ。」等と指摘したりする事もあるのではないのでしょうか。子どもにとってはいつも同じであることが落ち着くのです。この敏感期は子どもが今どんな活動に惹きつけられ、繰り返し行っているかを観察することで知る事ができます。子どもにとってそれぞれの敏感期は一過性のものです。今その子がやりたいと強く思う活動を繰り返し十分にやらせてあげることで、その子の持つ最大限の能力を引き出してあげたいですね。



今月のお仕事紹介

☆秘密袋

対象年齢 3才半～

秘密袋は触覚の立体識別感覚を洗練させるお仕事です。袋の中を見ずに中のものを触って何であるかを想像し当てていきます。秘密袋には2種類あり2人で行うもの、1人で行うものがあります。2人で行う場合は相手が出したものと同じものを出していきます。1人で行うものは袋の中に入っているものの名前を言って取り出していきます。どちらも触覚をたよりに中のものが何かを推測する楽しいお仕事です。お家でも簡単に出来るのでぜひやってみてください。

使われる言葉：袋の中のものの名称

直接目的：立体識別感覚とイメージの視覚化の発達。

間接目的：一感覚の孤立化。書くための準備。



【活動の様子】



はめこみ円柱に挑戦！



集中して出来たね！



色板に挑戦！頑張っているね



集中しているね



はさみが切れたね！



上手に入れられたね！



織紙出来たね！



線まで入れられたね。